

せ た が や く き ょ う い く た い こ う  
世田谷区教育大綱

せ た が や く き ょ う い く が く じ ゅ つ お よ ぶ ん か  
(世田谷区教育、学術及び文化の  
し ん こ う か ん そ う ご う て き し さ く た い こ う  
振興に関する総合的な施策の大綱)

令和5年11月

まな じぶんじしん み なお  
学ぶとは、自分自身を見つめ直すこと。

これからやってくる<sup>みらい</sup>未来<sup>む</sup>に向けて、

あたたかく充<sup>じゅうじつ</sup>実<sup>ひ</sup>した日々<sup>おく</sup>を送るために、

からだ こと と しこう ふか せいちょう  
身体<sup>からだ</sup>まるごとで問<sup>と</sup>いかけ、思<sup>しこう</sup>考<sup>ふか</sup>を深<sup>せいちょう</sup>めて、成<sup>せいちょう</sup>長<sup>せいちょう</sup>をはかる。

これからの時代<sup>じだい</sup>、最<sup>さいだい</sup>大<sup>かだい</sup>の課<sup>じんるい</sup>題<sup>ちきゅう</sup>は「人<sup>じんるい</sup>類<sup>ちきゅう</sup>と地<sup>きょうぞん</sup>球<sup>きょうぞん</sup>の共<sup>きょうぞん</sup>存<sup>きょうぞん</sup>」となる。

しかも、にわか<sup>せいかい</sup>に正<sup>せいかい</sup>解<sup>せいかい</sup>のない難<sup>なんだい</sup>題<sup>なんだい</sup>であり、

こ おとな けわ みち い い の でき じだい  
子<sup>こ</sup>どもと大<sup>おとな</sup>人は険<sup>けわ</sup>しい道<sup>みち</sup>を行<sup>い</sup>かなければ生<sup>い</sup>き延<sup>い</sup>びるこ<sup>い</sup>が<sup>い</sup>出<sup>い</sup>来<sup>い</sup>ない<sup>い</sup>時<sup>い</sup>代<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>。

「いま」に交<sup>こうさく</sup>錯<sup>むずか</sup>する難<sup>かだい</sup>しい課<sup>かだい</sup>題<sup>かだい</sup>について、

わづかな<sup>かのうせい</sup>可<sup>かのうせい</sup>能<sup>かのうせい</sup>性<sup>かのうせい</sup>も見<sup>みの</sup>逃<sup>みの</sup>さずにとらえ、語<sup>かた</sup>り合<sup>あ</sup>い希<sup>き</sup>望<sup>ぼう</sup>を紡<sup>つむ</sup>ぐ。

そのために、「いま」を感<sup>かん</sup>じて、

ひと ひと ちから あ にんしき と す まな あす  
人<sup>ひと</sup>と人<sup>ひと</sup>が力<sup>ちから</sup>を合<sup>あ</sup>わせて認<sup>にんしき</sup>識<sup>しき</sup>を研<sup>と</sup>ぎ澄<sup>す</sup>ます学<sup>まな</sup>びが、明<sup>あす</sup>日<sup>あす</sup>をひらく。

この時代<sup>じだい</sup>に生<sup>う</sup>まれ、地<sup>ちきゅう</sup>球<sup>く</sup>で暮<sup>く</sup>らすすべての人<sup>ひと</sup>々<sup>びと</sup>が、

たが 互<sup>たが</sup>いをいつくしみ、たす あ いのち ことう  
互<sup>たが</sup>いをいつくしみ、助<sup>たす</sup>け合<sup>あ</sup>って、生<sup>いのち</sup>命<sup>ことう</sup>の鼓<sup>い</sup>動<sup>ことう</sup>をつなぎあう。

まな ひと ゆた つよ いし そだ  
学<sup>まな</sup>びは人<sup>ひと</sup>を豊<sup>ゆた</sup>かにして、しなやかで強<sup>つよ</sup>い意<sup>いし</sup>志<sup>そだ</sup>を育<sup>そだ</sup>てる。

その学<sup>まな</sup>びを糧<sup>かて</sup>として、次<sup>じ</sup>世<sup>せ</sup>代<sup>だい</sup>にとつてよ<sup>よ</sup>り良<sup>しゃかい</sup>い社<sup>しゃかい</sup>会<sup>じつげん</sup>を实<sup>じつげん</sup>現<sup>じつげん</sup>するた<sup>じつげん</sup>めに、

ひと はたら ささ あ い  
人<sup>ひと</sup>は働<sup>はたら</sup>き、支<sup>ささ</sup>え合<sup>あ</sup>い、生<sup>い</sup>きる。

まな けんり だれ も  
学<sup>まな</sup>びの権<sup>けんり</sup>利<sup>だれ</sup>は、誰<sup>だれ</sup>もが持<sup>も</sup>つもの。

この保<sup>ほ</sup>障<sup>しょう</sup>と実<sup>じつげん</sup>現<sup>じつげん</sup>こそ、「世<sup>せ</sup>田<sup>た</sup>谷<sup>や</sup>の教<sup>きょう</sup>育<sup>いく</sup>」が目<sup>め</sup>指<sup>ざ</sup>す礎<sup>いし</sup>である。

さらに、学<sup>まな</sup>びの権<sup>けんり</sup>利<sup>けんり</sup>を分<sup>わ</sup>け隔<sup>へだ</sup>てなく実<sup>じつげん</sup>現<sup>じつげん</sup>する「誰<sup>だれ</sup>一<sup>ひとり</sup>取<sup>と</sup>り残<sup>のこ</sup>さない社<sup>しゃかい</sup>会<sup>しゃかい</sup>」を

こうちく  
構<sup>こうちく</sup>築<sup>ちく</sup>していくために、

わたし せたがや きょういく いぎ きょうゆう たか  
私<sup>わたし</sup>たちは「世<sup>せ</sup>田<sup>た</sup>谷<sup>や</sup>の教<sup>きょう</sup>育<sup>いく</sup>」の意<sup>い</sup>義<sup>ぎ</sup>を共<sup>きょう</sup>有<sup>ゆう</sup>し、高<sup>たか</sup>めていく。

ひと ちが  
人はひとりひとり違う。

せいべつ ねんれい そだ く かんきょう ししつ  
性別も、年齢も、育ち暮らす環境も、資質もそれぞれだ。

まな ば き まな ふか そくど こと  
学びの場での気づきや、学びを深める速度やリズムも、それぞれ異なる。

それならば、まな かた たよう  
学びのあり方も多様となる。

まな ば がっこう かてい ちいき ちきゅうぜんたい  
学びの場は、学校だけではなく、家庭であり、地域であり、地球全体だ。

また、まな ひと あか こ おとな  
学ぶ人は、赤ちゃんから、子どもであり、大人である。

こ みじゆく おとな  
子どもは、「未熟な大人」として、くくれない。

おとな わす りそう きぼう ちか  
大人が忘れかけた理想や希望により近い、

こせい も どりつ じんかく  
個性を持った「独立した人格」だ。

おとな こ こせい ひ だ  
大人は子どもたちの個性を引き出し、

「いま」を生きる日々を大切にして、そんげん せいちょう  
尊厳をもって成長し、

まな あそ ゆうじょう そだ かんきょう つく  
学び、遊び、友情を育てる環境を創り、

いっぽいっぽ ふ だ よ そ みちび せきにん お  
一步一步を踏み出せるように、寄り添い導く責任を負っている。

まさに、にんげん だれ も いのち ことう う  
人間として誰もが持つ生命の鼓動を、やさしく受けとめ、

かのうせい みらい みち ひ だ せたがや きょういく  
可能性と未来への道を引き出すのが「世田谷の教育」であり、

こ おとな せたがや きょういく つく だ どうじしゃ  
子どもも大人も、「世田谷の教育」を創り出す当事者なのである。

じんるいぜんたい かだいかいけつ と く すがた わたし あす  
ともに人類全体の課題解決に取り組む姿が、私たちの明日をつくる。